

拝啓 愈々御清適

之段 奉賀 候

陳者 星岡窯儀其

後故久邇宮殿下両

度の台臨を 忝 ふし

貴台之前光臨を得

し状況に比しては

若干面目を改

(掲載箇所 ここから)

め申候様致居候まゝ

更に御 来駕の栄を

得度 希望に堪

へさる次第に候

尚御 来駕に就てハ 乍粗

末 田舎風之手料理

大根の煮ころかし

にても差上度候間たく

(掲載箇所 ここまで)

前以て御一報煩度わずらわせたたく

尚々御同行五六人なおなお

ハ不苦何卒御誘くるしからずなにとぞ

引被下度候くだされたく

頓首

六月十七日

北大路魯山人

牧野伸顕閣下

侍史

当方之 差支日

六月二十三日

同 二十八日

二十九日